

インターフォーラム講演会 講演録

日 時： 平成21年5月11日（月）18：30～21：00
講 師： 呉 善花（お・そんふぁ）氏 拓殖大学 国際学部 教授
演 題： 「日本の曖昧力」－融合する文化が世界を動かす－
参考文献： 呉 善花『日本の曖昧力』（PHP新書）

【講演要旨】

◆日本の精神性に関心が集まりつつある

「冬のソナタ」が日本で大ブームとなった。人気の秘密は、日本人が「日本の古き良きもの」を「懐かしむ」ことにある。実は、「冬のソナタ」の脚本は、日本の古い漫画・アニメ（「キャンディ・キャンディ」）をモチーフにしたもの。日本人は「冬のソナタ」を見ることで、「日本の古き良きもの」、「日本の精神性」を求めているのでは。

日本の若者たちも「日本的なモノ」を探している。拓殖大学に「日本の歴史と文化」という講座を設けたところ大人気。学生の反応は、「ありがとう」。単に知識を増やすという講義ではなく、この講義によって「人が変わる」との印象があり、やりがいのある科目となっている。

◆日本人と韓国人は外見が似ているが価値観・感覚は全く異なる

例えば、日本の「韓流ブーム」は「ヨン様」人気によって火がついた。「ヨン様」は韓国女性からみると「優柔不断、あんな弱々しい男、不安そうな男のどこが良いのか？」となるが、日本女性からみると「なよなよとしたところに魅力を感じる」ということになっている。韓国は、儒教社会なので、強烈な「男尊社会」であり、韓国女性の理想像は「非の打ちどころのないパーフェクトな男性」であるが、日本女性は「どこか隙のある男性」に魅力を感じるようだ。日本には、母系社会の伝統が生きており、「かかあ天下」の下に「亭主関白」があるが、韓国には「夫は天様」。

日本と韓国では、普段の生活における何気ない行為に対する価値観も大きく異なる。例えば、靴の脱ぎ方。日本も韓国も室内に入る場合は靴を脱ぐ。韓国人は、脱いだ靴を揃えて靴のつま先を玄関の方向に向けることはしない。日本人が、お客様の靴を揃えて靴のつま先を玄関の方向に向けることは、お客様への配慮または礼儀とされているが、韓国人は、「早く帰れ」との意に受け取る。また、韓国では食事の際、食器は手に持たない。右手のみで箸・スプーン等を使って食事をする。左手は左膝の上に置かれているのが礼儀。日本では、お茶碗を手に持って食事をするのが礼儀とされている。「八方美人」の意味も日本と韓国では正反対。

韓国人が、こうした価値観・感覚の違いを認識した上で、日本や日本人を理解するには、最低5年間はかかる。

◆日本語は「受け身」を多用する

日本語と韓国語は言語の構造は非常に良く似ているが、日本語の「受け身」型の言い回しは韓国にはない。日本以外の国では「受け身」型の言い回しはあまりない。

「受け身」型の言い回しからくる印象は、日本人は「反省好き」ではないかということ。「泥棒に入られた」、「女房に逃げられた」という言い回しからは、どこか自分の側に責任があるというニュアンスを感じる。根底に「責任は私にある」という発想がある。また、これは、自然に対する絶対的な受け身の姿勢ともつながっている。

◆日本はその独特な美意識・価値観の上に「技術大国・経済大国」を築いてきた

中国・韓国では、儒教の強い影響があり「技術」が蔑視されてきた。身を勞することを卑しむ伝統があった。一方、日本では「技術」や「技術者」を尊敬するという伝統がある。

日本人の美意識は独特なものである。「花は満開が美しい」というのが欧米やアジアの人々の感覚であるが、日本では「満開の花も良いが、蕾にも魅力がある」となる。日本人は「移ろい」に「もののあはれ」や「わび・さび」を感じ、美しいと思う。

また、日本では素材そのものが実感できて、かつ、判然とはしないが確かな技術によって裏付けられたものを好む。例えば、韓国ではステンレスの食器（整形美、均一、ピカピカ）が好まれるが、日本では茶器（形は歪（いびつ）、バラバラ、鈍色・土色）が好まれる。

また、日光東照宮や出雲大社なども、故意に「未完成」の部分を残し、永遠に「造り続けている」と聞く。常に「造り続ける」、あるいは「移ろい」を受け入れる姿勢がある。

日本が一番になるのは好きじゃない。いつも「腹八分目」。

こうした日本人の独特な美意識と技術に対する尊敬などが、今日の「技術大国・経済大国」の根源であると考えている。

◆日本と大陸の違い

大陸では広大で平坦な国土に強大な王権を必要とした。また、広大さ故に、山間部・平野部・沿岸部のそれぞれが対立し、戦争を繰り返す歴史を有してきた。こうして社会では、自然物を崇拝しているだけでは生きていけない。強烈なリーダーを期待する、いわゆる「人治主義」が中心となる。儒教では「八百万の神々」という感覚は異端視する。半島も地政学的な理由により、大陸からの侵略を受け、かつ、その文化・価値観の強い影響を受けてきた。

日本は、大陸から程よく離れた島国であり、かつ、歴史的に侵略を受けたことがない。そのため、大陸からの影響を「選りながら」受容してきた。例えば、仏教も神道と融合している。また、山から平野から海まで一望できるほどの狭い国土であり、人々は強大なリーダーシップを必要とせずに協力し、生活することができた。豊かな自然を崇拝する感覚が残った。

◆3つの「日本」が混在しており、日本の「曖昧力」に期待

今日の日本は、「欧米化された日本」と「農耕アジア的な日本」と「前農耕アジア的な日本」の3つが混在している。島国という地理的な要因もあり、日本では、縄文時代以来の自然採集を中心として生活に基づく精神性が失われることなく残っている。

「和」、「融合する力」は「前農耕アジア的な日本」由来するものであり、全体と個との調

和、健全な中間層の存在、世界に誇るべき「技術大国」、あるいは「治安大国」は、これらの上に築かれたもの。そこに、「日本の精神」の未来性を強く感じる。

今日の社会問題は、「欧米化された日本」の弊害が顕在化したもの。アメリカンスタンダードは「制度の勝利」であり、「勝者のみが生き残る」という厳しいもの。既に限界に達している。これからの世界は、日本の精神性、「曖昧力」が必要だと信じる。

【Q&A】

Q 1. 日本におけるリーダーシップのあり方？日本には強いリーダーは不要か？

A 1. 日本には独裁者はあわない。全体を上手くまとめるのが日本的なリーダー。「円くまとめていく」という日本的なリーダーシップの手法を活かしていく方が良い。

Q 2. 著作で「脱亜超欧」と主張しておられるが「脱亜」しないといけないのか？

A 2. 10年以上前から「脱亜超欧」を出張してきた。日本人は古代文明への憧れがあるため中国に期待しているが、今の中国人にあの偉大な文明の精神性は残っていない。残っているのは遺跡だけ。インドも朝鮮半島も同様。日本にはこうした精神性が残っているだけでなく、時代ごとに華を咲かせている。日本は北方・南方それぞれの文化を受容している美の大国。日本は一つの文明圏と捉えるべき。アジアに幻想を持つことなく前向きに取り組むべき。これまでは欧米を目標としてきたが、アメリカンスタンダードは崩壊した。日本は強烈ではないが、日本らしい、欧米を超える、リーダーシップを発揮すべき。日本のエリートの方々に大いに期待している。

Q 3. 日本の良さを外国に発信していくにはどうしたら効果的か？

A 3. 今がチャンス。「日本風」が世界中でブーム。日本の精神性を表すもの、例えば、茶道や着物が非常に受けている。サービス産業における日本の「もてなし精神」も高い評価。特に最近では環境問題・健康問題への関心の高まりから、自然と密着している着物や和食に関心が集まっている。こうした点を強烈に意識して発信していくことが重要。

Q 4. 次の世代に日本の美意識を引き継ぐためにはどうすればよいか？

A 4. 日本人としての誇りを持たせるべき。まず、姿勢を正す。「茶道を学ぶ」、「着物を着る」というのも効果的。「日本人が日本のことを知らずして何が国際人か！」という思いで大学でも指導している。「自慢する」と「自信を持つ」ことは違う。日本的なものに誇りを持たせるような教育が良いと思う。

Q 5. 「ポケモン」などは世界で受けているが、これも積極的に評価してよいのか？

A 5. ソフトアニミズム的なものとして、日本の漫画・アニメも評価してよいのではないかな。